

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2014. 11. 11◆◆◆

期待と批判

今年の夏は雨に悩まされました。梅雨が明け、しばらく暑い日が続き、瀬戸内側などでまたぞろ取水制限が取りざたされるようになったと思ったら、一転8月になって雨続き。台風12号、11号と2週連続で台風が接近し、四国では10日間で2000ミリを超える降雨量を記録した地域もありました。

9月は気候的には若干落ち着いていたように思いますが、10月に入るとまた台風18号、19号が週末に2週連続で接近、上陸しました。そのため全国的に洪水被害や土砂災害が頻発。8月の台風11号では徳島的那賀川で戦後最大流量・水位を記録するなど四国でも大きな被害を受けたところです。

四国地方整備局としても、台風11号、12号通過時に管内全95市町村のうち26市町村と3県へ延べ171人のリエゾンを派遣し情報収集を実施するとともに、排水ポンプ車や照明車などの災害対策用機械等を最大47台派遣するなど、被害を最小限に抑えるため出来る限りの対応を行いました。

広島で発生した土砂災害現場には、土砂災害対応の専門家として四国地整を含むテックフォースが全国から派遣され、原因の究明や対策案の検討を行いました。また捜索活動を行う警察や消防、自衛隊に対して現場の安全情報を提供し二次災害の発生防止に貢献しました。これらの対応に対してはたくさんの自治体の首長さんや地域の皆様から感謝されお礼の言葉も頂いたところです。我々としても日頃の業務に加えて緊急時における現場対応力や支援活動が評価されたことに対して大きな喜びと誇りを感じ、あらためて整備局職員自らの専門能力や現場対応力の向上に努める必要性を再認識しました。

その一方で、公共事業そのものに対する批判、例えば「技術者不足による不調不落の発生で公共事業は予算を積んでも執行できない」とか「公共事業バブルの再来」「バラマキ」であるとか、最近では「公共事業が実施されることにより投資資金が民間から吸い上げられ民間事業の実施を阻害している」とか、様々な視点から多くの批判が聞こえてきます。これらの批判の中には、社会資本整備の必要性に対する認識不足に基づくあまり論理的ではないものもあります。

ステレオタイプな公共事業批判である公共事業無駄遣い論がその根底にあると思われませんが、公共事業予算自体はピーク時の約半分に減り、バラマキ無駄遣い（この定義も実は曖昧です）する余地などは全くありません。地震・津波や洪水被害、土砂災害などの自然災害は頻発しており、防災・減災のための予算すらも十分に確保できないのではないかと大いに心配しています。

このように根拠が薄弱あるいは一部事象を捉まえてあたかも全体がそうであるかのような批判もあるのですが、我々としては批判は批判として受け止め適切な情報の提供・開示や反論を行っていく必要性を痛感しています。

来年度事業に向けての予算案の策定作業は佳境を迎えています。また今後の事業の方向性を占う広域地方計画などの様々な中長期計画の策定作業も本格化しようとしています。我々としても様々な形での議論を積み重ねて地域の皆様が期待されている役割を今後もしっかりと果たしていきたいと思っています。引き続きご協力ご支援をお願いいたします。

四国地方整備局
企画部長 石井 一生

■建設フェアの開催について（結果報告）

【企画部 企画課】

平成26年10月10日（金）、11日（土）の2日間、高松市サンプートの高松シンボルタワー等において、『くらしと技術の建設フェア四国2014in高松with土木学会100周年』が開催されました。

二日間で延べ6,800人の来場者（初日1,800人、二日目5,000人）が訪れました。各ブースにおいては、各社自慢の最新テクノロジーによる建設技術・防災技術の展示・実演が行われました。その他、四国の3高専合同の「高専どぼじょと工作教室」、徳島北高校による「手作り防災教室」、「高所作業車乗車体験、降雨体験装置」など、一般の方に建設産業の魅力を伝えるイベントが多数実施され、会場には企業関係者だけではなく、家族連れや学生など多種多様な参加者の姿が見えました（特に学生や女子が多数入場）。

二日目には台風19号対応のため、衛星通信車・照明車の緊急出動のハプニングもありましたが、フェア当日は天候や気温など気象条件にも恵まれ、大盛況のうちに終了しました。

ご尽力をいただきました関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。

【ブースコンテスト（注目技術賞）の審査結果】

- ・最優秀賞 日立造船（株）
「陸上設置型フラップゲート式防潮壁 neo Rise」
- ・優秀賞 （株）五星
「パラモーターによる3D写真測量及び一眼レフカメラによる3Dモデル作成（新技術紹介）」
- ・優秀賞 （一社）プレストレスト・コンクリート建設業協会
「橋梁点検ロボットカメラ」

【ブースコンテスト（ベストブース賞）の審査結果】

- ・業界賞
（株）五星
- ・学生賞
大成建設（株）四国支店
- ・一般賞
東亜建設工業（株）四国支店

※開催結果についてはHPにも掲載しています。

<http://www.skr.mlit.go.jp/kikaku/shikokukensetsu/past/fair2014/index.html>

■国営讃岐まんのう公園「ウィンターファンタジー」開催!!

【香川河川国道事務所 公園課】

国営讃岐まんのう公園では、11月22日（土）から来年の1月4日（日）までの期間、開園時間を20時まで延長し「ウィンターファンタジー」を開催します。今年も約50万球のイルミネーション・ライトアップで園内に幻想的な光景を演出します。

今年のテーマは、「WA和輪!」です。日本の和や人との輪をイルミネーションで表現します。

園内では、2.5haの大地に雄大な富士山やサクラ吹雪を描くほか、日本の四季を感じさせるモミジや雪の結晶等を多彩なグランドイルミネーションで表現します。

いきいき四国ー11月配信版.txt

その他、四国最大級の地上高さ5mの‘シャンパングラスタワー’や、全長100mの光のトンネル、エントランス広場では高さ約10mの‘シンボルツリー’がそびえ立ちます。また、週末には子供達に人気の‘ドラ夢君’がお出迎えをします。幻想的なイルミネーションのほかにも、特別ピザ教室など体験教室も開催します。

皆様、ぜひ国営讃岐まんのう公園の「ウィンターファンタジー」へ足をお運びください。

イベントの詳細につきましては、国営讃岐まんのう公園HP(<http://www.mannoukouen.go.jp/>)又は、まんのう公園管理センター(TEL.0877-79-1700)までお問い合わせください。

■平成26年度（第7回）国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」受賞事例の決定について

【建政部 都市・住宅整備課】

国土交通省では、持続的発展が可能な社会の構築に貢献する「循環のみち下水道」に関する優れた取組みに対し、国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」として表彰しています。

今年度より、「新下水道ビジョン」の策定に合わせ、部門の刷新とグランプリの創設を行い、過去最多となるご応募をいただきました。四国地方整備局管内から「高知県」の受賞が決定し、平成26年9月10日（水）に国土交通本省（中央合同庁舎3号館10階共用大会議室）において表彰式が開催されました。

- ・受賞団体【レジリエント部門】「高知県」
南海トラフ地震に備える「高知県内の下水道管理者が一体となった取組み」

【応募事例の概要・PRポイント】

内閣府の津波高さの見直し（H24.3）を受け、県内下水道施設の被害想定を調査した結果、68施設のうち60%が浸水被害を受け、なかには10mを超える巨大津波により壊滅的な被害を受ける市町村も明らかとなり、南海トラフ地震発生時にも県内の下水道利用者である22万人（H24年度末）の生活を守るため、県と市町村が一体となった下水道施設の地震・津波対策の取組みが急務となりました。

このため、平成24年10月に有識者や下水道専門家、国、県、市町村で構成する「高知県下水道地震・津波対策検討委員会」を全国に先駆けて設置し、東日本大震災の新たな知見や下水道の新技术を取り入れた地震・津波対策ガイドラインを策定しました。

【功労者の話・エピソード・苦労話など】

当初は、東日本大震災の経験と教訓から、県と市町村が一体となって、東日本大震災の新たな知見や新技术を取り入れた下水道の地震・津波対策を推進することが目的で、委員会を設置しましたが、市町村の担当者レベルの勉強会も行うことで、市町村職員の知識向上はもちろん、勉強会後の意見交換会等から市町村職員間での親睦も深まり、助け合う関係性ができました。「災害時における下水道施設を管理する市町村等の相互支援に関する協定」は、その結果といえます。（高知県公園下水道課：長野課長）

■平成26年度 四国風景街道交流会を開催 ～地域活性化・観光振興に向けて～

【道路部 地域道路課】

日本風景街道は、「道」を舞台に、多様な主体が協力しあい、地域ならではの自然、歴史、文化等の資源を活かして、美しい国土景観の形成、地域活性化、観光振興を図る取り組みであり、全国各地で様々な活動が行われています。

平成26年10月現在、四国内では14ルート（全国134ルート）が登録されています。今年8月、四国の風景街道パートナーシップ（活動団体）が一堂に会し、個性豊かな地域資源を活かした魅力向上の方策や観光振興の方策等について意見を交わす四国風景街道交流会を下記のとおり開催しました。

- ◆日時：平成26年8月23日（土）13時～21時
- ◆場所：高松市牟礼図書館（基調講演、活動報告、意見交換）

いきいき四国ー11月配信版.txt
道の駅「源平の里むれ」、庵治観光交流館、屋島山頂、
むれ源平石あかりロード（現場見学）

◆参加者：パートナーシップ、行政関係者、一般参加者あわせて総勢154名

四国地方整備局長の挨拶に続き、第1部では、風景街道の魅力づくり～活性化につながる地域資源の活かし方～と題して、東京大学アジア生物資源環境研究センターの堀繁教授より基調講演をいただきました。講演では、沿道のにぎわい創出につながる景観の考え方とともに、にぎわい創出には来訪者を温かくもてなす「ホスピタリティ表現」が不可欠であることを詳しく解説していただきました。

第2部の活動報告及び意見交換では、これまでの活動状況及び今後の実施方針等に関して各パートナーシップより報告をいただきました。その中で、継続的な活動を行うにあたって「資金調達」が大きな課題であるとの意見があり、各団体の現状や、資金調達の方策、効果的な広報等も含めて意見交換を行いました。

第3部の現場見学では、大型バスに乗り、道の駅「源平の里むれ」、庵治観光交流館、屋島山頂を訪れ、それぞれの管理者やボランティアガイドから説明を受けながら、美しい風景を見学しました。夕刻からは、イベント期間中のむれ源平石あかりロードを訪れ、実行委員会の説明を受けながら風景街道のルートを散策し、参加者は、継続的な活動となっているイベントを熱心に見学していました。

本交流会の開催により、参加者の多くが景観や風景に対する理解を深めることができ、四国内の各団体の活動内容を知っていただくことができました。

■大渡ダム大橋直轄診断について

【道路部】

道路の老朽化対策に関しては、多くの施設を管理している地方公共団体に対して、これまで以上に財政面、技術面等で支援が求められています。そこで、国土交通省では、地方公共団体への支援策の一つとして、緊急かつ高度な技術力を要する可能性が高い橋梁について、直轄診断を試行的に実施することとなり、全国で下記3橋梁が選定されました。

- ・三島大橋（福島県三島町管理）
- ・大前橋（群馬県嬬恋村管理）
- ・大渡ダム大橋（高知県仁淀川町管理）

四国地方整備局では、宮本地域道路調整官をリーダーとする「道路メンテナンス技術集団」18名（四国地方整備局、国土技術総合研究所、土木研究所で構成）を現地に派遣し、平成26年9月19日（金）13:00より直轄診断に着手しました。

当日、仁淀川町長からは、「大渡ダム大橋は昭和58年に完成した橋梁で、町では平成21年度に点検を実施しているが、技術力の無い当町では補修に着手するのは困難であった。今般、5年に一度の近接目視点検が義務づけられるのにあわせ、直轄診断の制度が設立され、これを活用出来るよう要望したところ迅速に対応頂き感謝する。」などの挨拶があり、その後、横地土佐国道事務所長から町長へ「道路メンテナンス技術集団」派遣文書を手渡し、現地調査に着手しました。

現地調査は橋梁点検車や高所作業車、点検路からの近接目視により行い、損傷状況を確認・記録後に、当日の調査概要を仁淀川町長に報告しました。

大渡ダム大橋の直轄診断は全国初の取り組みであったため、多くのマスコミが取材に訪れ、複数のテレビ、新聞で報道されました。

今後、現地での調査結果を取りまとめ、仁淀川町に技術的助言を行う予定です。

■「四国における官庁施設の地震・津波対策」をテーマにパネル展示を実施

【営繕部】

「公共建築月間」期間中の11月に高松サンポート合同庁舎において「四国における官庁施設の地震・津波対策」をテーマにパネル展示を行います。

いきいき四国－11月配信版.txt

地震・津波対策の経緯・取組、耐震化の取組状況、津波対策、高松サンポート合同庁舎整備による防災機能強化、これまでに実施した庁舎改修事業の具体例等を示しながら、四国地方整備局営繕部における庁舎整備内容についてわかりやすく示したパネルを作成し、官庁営繕の取組について広報します。

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

「いきいき四国通信」に関するご意見等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

<mailto:seibikyoku@skr.mlit.go.jp>

*****「いきいき四国通信」事務局*****

「いきいき四国通信」の配信中止・配信先変更のご希望がありましたら、事務局までご連絡頂きますようお願いいたします。

国土交通省 四国地方整備局 企画部
【担当】後藤（内3126）、仙波（内3176）
〒760-8554 高松市サンポート3番33号
電話(087)851-8061/FAX(087)811-8408
<mailto:seibikyoku@skr.mlit.go.jp>